三芳町

内水ハザードマップ

保存版

内水ハザードマップ（浸水実績図）とは

雨水は下水道による排水や地下浸透により排除されています。しかし近年、雨が局地的に短時間で大量に降る「ゲリラ豪雨」が多く発生し、下水道の排水能力を上回る降雨や都市化による地下浸透量の減少などにより、雨水を排水しきれない「内水氾濫」が発生しています。

三芳町では過去（平成22年以後）に浸水実績のあった箇所を元に、この内水ハザードマップを作成しました。浸水実績箇所、避難時危険箇所、避難場所、避難時の注意点や日頃の防災・浸水対策などについて記載していますので、もしもの時に備えて参考にしてください。

◆内水氾濫とは

一時的に大量の降雨（いわゆるゲリラ豪雨など）が生じた場合に、下水道その他の排水施設や河川などに雨水を排出できないことにより、地表面にあふれる水の事です。

三芳町役場　上下水道課

〒354-0041
埼玉県入間郡三芳町大字藤久保1047番地1
電話：049-274-1014

令和3年3月発行

情報の入手

町民の皆さんは正確な気象情報や避難情報を入手して、指示がない場合でも、必要性を感じたら、自主的に避難してください。

テレビ・ラジオ

テレビの地上デジタル放送dボタンを押すと、気象情報などを見ることができます。

防災行政無線

三芳町では防災行政無線で放送された内容を、電話で確認できるサービスを行っています。
【防災行政無線電話応答サービス】　0800-800-9912

三芳町地域コミュニティメール

お仕事先で町内にいない方や聴覚障がい者等の方へも、行政情報を確実に伝える登録制の配信するサービスです。登録をすると、防災無線放送の内容のほか、緊急情報、事故や防犯情報、イベント情報などが配信されます。
【登録方法】
hustlefm@kizuna-sta.jp
上記メールアドレスまたは右の二次元コードから空メールを送って、返信メールの指示にしたがって登録してください。

三芳町Twitter（ツイッター）

ツイッターを通じて、災害情報やイベント情報など、町の"旬"な情報をお伝えします。
【ツイッターアカウント】　@miyoshi_machi
https://twitter.com/miyoshi_machi

エリアメール（NTTドコモ）・緊急速報メール（au、SoftBank、楽天モバイル）

気象庁や国・地方公共団体が配信する災害・避難情報を、携帯電話会社により町内に滞在する携帯電話に配信されるサービスです。受信すると専用の着信音が流れます。受信するための登録は不要です。
※受信料や情報料等は無料です。
※機種によっては未対応や受信設定が必要な場合があります。携帯電話各社のホームページや販売店にお問い合わせください。

インターネット

◆気象庁　ホームページ …… https://www.jma.go.jp/index.html
◆埼玉県　危機管理・災害情報サイト …… https://plaza.rakuten.co.jp/kikisaitama/
◆国土交通省　川の防災情報（水位情報） …… https://www.river.go.jp/
〔携帯電話〕http//i.river.go.jp/
川の防災情報二次元コード→
◆荒川上流河川事務所 …… https://www.ktr.mlit.go.jp/arajo/
◆三芳町　ホームページ …… https://www.town.saitama-miyoshi.lg.jp/
◆防災・危機管理eーカレッジ …… https://www.fdma.go.jp/relocation/e-college/
…災害の備えや基礎知識などを学ぶことができます。
◆消防防災博物館 …… https://www.bousaihaku.com/
…消防防災に関する知識などを提供する総合サイトです。

気象情報・避難情報

三芳町より発表される情報と避難行動

三芳町では、国土交通省・埼玉県・気象庁が発表する情報、雨の降り方や河川の状況等から総合的に判断し、必要に応じて避難準備情報・避難勧告・避難指示を発表します。町民の皆さんは指示に注意し、家族やご近所の方々と協力して安全な避難行動をしてください。

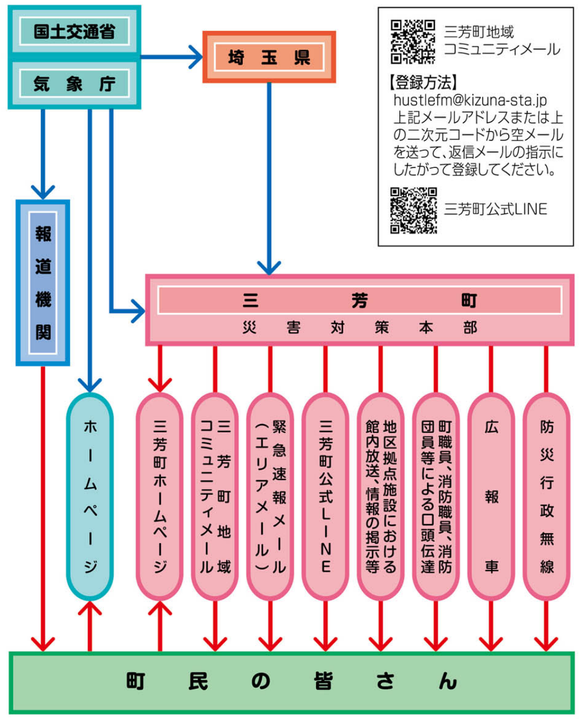
警戒レベル	危険度	気象情報等	指定河川洪水情報	避難情報等	とるべき行動
5		大雨特別警報	氾濫発生情報	緊急安全確保	●すでに災害が発生しています。いのちを守るための最善の行動をとりましょう。
〈 警戒レベル４までに必ず避難！ 〉					
4	極めて危険	土砂災害警戒情報	氾濫危険情報	避難指示	●冠水など、避難が困難になっているおそれがあります。
	非常に危険				●速やかに避難を!!! ●浸水想定区域外の、少しでも安全な場所へ避難してください。
3	警戒	大雨警報 洪水警報	氾濫警戒情報	高齢者等避難	●高齢者等は速やかに避難を。 ●浸水想定区域や、河川沿いにいる方も、準備が整い次第、避難してください。
2	注意	大雨注意報 洪水注意報	氾濫注意情報		●ハザードマップ等で避難場所や危険な区域を再確認しましょう。
1		早期注意情報			●災害への心構えを高めます。

雨の降り方と雨量の関係

降っている雨を観察することで、だいたいの雨量を知ることができます。危険な状態になる前に自分で判断して避難ができるよう、雨の降り方と雨量の関係を知っておきましょう。

予報用語 1時間雨量（mm）	やや強い雨 10～20mm	強い雨 20～30mm	激しい雨 30～50mm	非常に激しい雨 50～80mm	猛烈な雨 80mm以上
人の受けるイメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る	滝のように降る（ゴーゴーと降り続く）	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる。
人への影響	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	傘をさしていてもぬれる		傘は全く役に立たなくなる	
屋内（木造住宅の場合）	雨の音で話し声がよく聞き取れない	寝ている人の半数くらいが雨に気がつく			
屋外の様子	地面一面に水たまりができる		道路が川のようになる	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	
車に乗っていて	—	ワイパーを速くしても見づらい	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる	車の運転は危険	

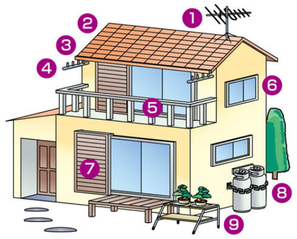
情報の伝達経路



日頃の備え

わが家の点検・整備

❶アンテナや煙突を補強する。
❷瓦のずれなどを補修する。
❸雨どいを掃除する。
❹竿やベランダの小物を全て取り込む。
❺壊れた手すりは修理する。
❻雨戸のないガラス窓は飛来物の破損から守る工夫をする。
❼古い雨戸は、筋交いをつけたり、つっかい棒をあてがったりして、応急の補強をする。
❽プロパンガスボンベを鎖でしっかり固定する。
❾家の周りにある風に飛ばされそうなものを取り込む。



◆浸水の危険がある場合には、大切な家財道具は２階や高い安全な場所に移動する。
◆雨水排水口が落ち葉やゴミで詰まると、道路冠水や浸水の原因に。雨水排水口の周りがゴミで汚れていたら、清掃にご協力を。

家族みんなで備えましょう

家族会議を開きましょう。

避難時の家族一人ひとりの役割分担を決めましょう。
また、災害時に外出や交通機関の影響で、帰宅困難になる家族との連絡方法と最終的に落ち合える場所を決めましょう。

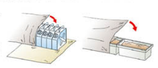
安全な避難経路の確認を

あらかじめ自分たちで複数決めておいた避難場所までの経路（避難経路）は、安全に通行できるかを確認して避難しましょう。

簡単な土のうの作り方

◆ごみ袋を利用
大きめのごみ袋などを二重にし、中に半分程度の水を入れ、すき間なく並べます。段ボールに入れて連結すると、強度が増し、積み重ねることもできます。

◆シートを利用
土を入れたプランターを横に並べ、レジャーシートを巻き込んで補強します。プランターの代わりに水を入れたポリタンクや重くしたビールケースなども利用できます。



非常持ち出し品を準備しましょう

飲料水・生活用水
3日分の飲料水の備蓄（1人×3日×3ℓ）、水筒（1人×1個）、生活用水の確保・風呂水の溜め置き 等

食料品等
3日分の食料の備蓄、主食（米、レトルト、フリーズドライ品 等）、副食（缶詰、瓶詰、乾物等）、乳幼児・子ども（粉ミルク、離乳食、おやつ 等）、その他病人用の治療食 等、簡易食器（箸・スプーン・紙コップ 等）、缶切り・ナイフ・ラップ

医薬品等
常用薬、救急用品（消毒液・傷薬・ばんそうこう 等）、包帯・三角巾・さらし、使い捨てカイロ

感染症対策用品
マスク、手指消毒剤、体温計

衣類・衛生用品
衣類・軍手、簡易トイレ・トイレットペーパー、ティッシュ・ウェットティッシュ、生理用品、紙おむつ、ゴミ袋、歯磨き用品

停電への備え
懐中電灯（大型：1個／小型：1人×1個）、電池、手動携帯充電器

情報
スマートフォン、携帯電話、ポータブルラジオ

燃料の備え
卓上カセットコンロ・ボンベ、固形燃料・灯油バーナー

その他
アウトドア用品（寝袋、防水布、ランプ 等）、新聞紙、ガムテープ、ライター・マッチ・ローソク、ロープ、笛、マーカーペン・筆記具

非常用持ち出し品
非常用持ち出し袋（必要最小限の備蓄品）、ヘルメット・レインコート・スニーカー、現金・通帳・印鑑・健康保険証・カード類

浸水時・避難時の注意点

正確な情報収集

町役場や消防署から避難の呼びかけがあった場合には、速やかに避難してください。ラジオ・テレビ・インターネットなどからも正しい最新の気象・災害・避難情報を収集しましょう。

避難の呼びかけに注意しましょう

洪水の危険が迫ったときには、町役場や消防団から避難の呼びかけがあります。指示に従って速やかに避難してください。指示が無くても危険を感じたら自主的に避難しましょう。

家を出る前に確認しましょう

避難する前に、電気のブレーカーを切り、ガスの元栓をしめ、電話の受話器を元に戻しましょう。親せきや知人にも避難する旨を連絡しておきましょう。非常持ち出し品を忘れずに！

動きやすい服装、２人以上での避難

避難するときは、動きやすい服装で、２人以上での行動を心がけましょう。サンダル等は禁物です。動きやすい運動靴をはきましょう。

お年寄りなどの避難に協力を

お年寄りや子ども、病気の人は、早めの避難が必要です。近所のお年寄りや子ども、病気の人などの避難に協力しましょう。

車での避難はやめましょう

冠水した道路では車が水に浸かり、動かなくなることがあります。また、道路をふさいで救命活動や水防活動の妨げになることがありますので、車での避難はやめましょう。

河川や橋に近づかない

河川の様子を見ようとしたり、避難するときに水位が増した河川や橋に近づくことは危険です。

水面下は危険です

水面下にはどんな危険が潜んでいるかわかりません。長い棒を杖代わりにして安全を確認しながら歩きましょう。

マンホールは危険

大雨により外れたマンホールのふたに近寄ったり、道路に溜まった雨水を流すために、マンホールのふたや汚水ますを開けることは非常に危険です。

アンダーパスや周囲よりも低い土地に注意

大雨が降ると、周囲より窪んで低くなっている道路は、水がたまって通行ができなくなります。また、道路や鉄道の下をくぐるアンダーパスも、水がたまって危険となる場所です。

基本は立ち退き避難、次に緊急時の屋内安全確保

風水害での避難行動では、災害が発生する前に危険性がある場所から避難する「立ち退き避難」が基本です。
しかし、「立ち退き避難」を行う余裕がない場合や、悪天候などにより外出することが危険な場合は、「屋内安全確保」でいのちと身体を守りましょう。

避難勧告などが発令されていなくても、その場に留まると危険と判断したら、自主的に立ち退き避難を開始してください。

地域ぐるみで避難行動要支援者（災害時要援護者）を支援しましょう

避難行動要支援者の方々が、遠慮なく援助を申し出られるように、地域の皆さんは普段から働きかけましょう。
また、要支援者自身とその家族の方々も、地域との交流を保ち、いざというときの援助を依頼しておきましょう。

◆高齢者や乳幼児など、手をつなぐ、背負うなどによりしっかり援助しましょう。
◆言葉が通じない外国人には、声をかけ、身振り手振りを交えて誘導します。
◆障がい者などの避難行動要支援者を把握し、地域の具体的な救援体制を定めておくことが重要です。一人に対して複数の住民による支援が必要です。
◆日ごろから避難行動要支援者が地域のどこに何人ぐらいいるのかを把握し、日常的にコミュニケーションを図っておくことが重要です。